

2022年度_事業報告書

1.ビジョン

「自分の人生を1からデザインする楽しさであふれる社会」の実現

これまでは、偏差値の高い大学に進学し大企業に就職することで年功序列賃金、終身雇用で定年を迎えます。家や車を買ひ、子どもを育てることが幸せな人生である。ネットが普及する前まではごく一部の作られた人生の型を誰も疑う事をしません。しかし、これだけ世の中は不（課題）で溢れ、ネットが普及した世の中で上記の幻想も完全に消え、同時に「生きる意味」がわからない！子ども・若者が増えてしまい、どうしたら稼げるか、どうしたら安定した暮らしが手に入るのかという「他者軸」の生き方選びではなく、自分がどうしたいのか、どのような人として生きていきたいのかを考え、「自分軸」を持って選び挑戦することが必要だと考えます。

一般社団法人ことばでは、日本中の子ども・若者が『この人生でよかった！』『生まれてよかった！』と笑い合っている社会、つまり、「自分の人生を1からデザインする楽しさで溢れる社会の実現」を目指す。

2.ミッション

子ども・若者に『自分の想いに気づき、伝え、実現する場』を提供する。

インターネットの普及により自分で考え仮説を立てる前に他の人の意見や正解に触れる機会が増えてしまいました。自分の心と対話する時間も減ってしまい自分の考えを「言葉」にして、他者と語り合うことで考えを深め、整理する機会がすくなくなりました。

そんな若者を対象に 私たちは人との対話や交流を通して原体験を振り返り考えを深め「個」を考え、自分の「言葉」にし挑戦できる場を提供することが使命だと考えます。

3.目標

2022年度は、新型コロナウイルスの影響から徐々に脱却し、これまでのような活動を再開できると考えていたが、移動の制限等が残る厳しい状況が続きほとんどの事業を実施できなかった。オンラインを活用した事業等も予定していたが、思うように進めることができなかった。

4.組織基盤強化

1) マンスリーサポーターとの関係強化

2021年度末までに81名の方々にサポーターに就任いただいたが、現状66名まで減ってしまった。活動が進まない中で進捗情報等を報告できなかった。また、2年以上経過したサポーターの方々に向けた離脱防止策を講じることができずに減少してしまった。

2) プロボノとの関係構築

2021年度に初めて企業や個人のプロボノ支援を受けて、2022年度も積極的にプロボノの方々と受け入れて事業を進めようと考えていたが、組織側でプロボノを募集するプロジェクトが実施できなかった。

3.大学や各種センターとの連携

事業を実施する地域の大学やボランティアセンター、社会福祉協議会等のボランティアネットワークの新規構築についても活動が実施できずに新規の募集も止まってしまった。

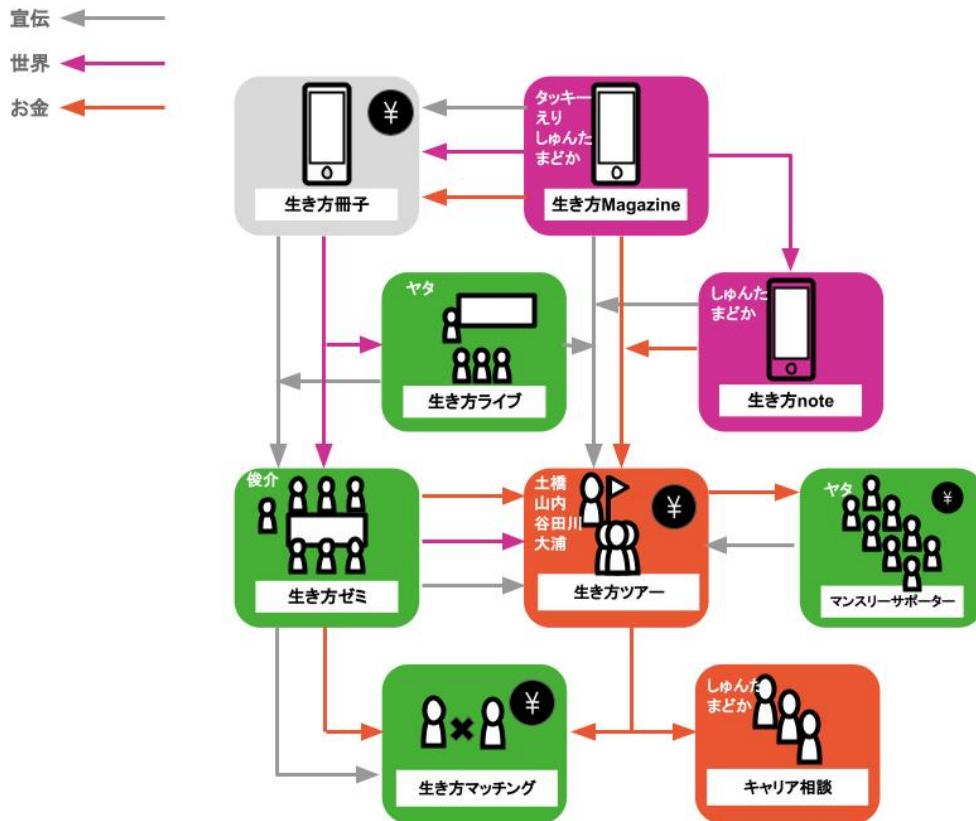
4.理事の巻き込み

飲食店やデザイン/編集、財務、法務、フリースクール経営など幅広い分野で働いている理事にそれぞれの専門的な観点からアドバイスをもらう予定だったが、事業や活動の実施ができなかったために受けられずに終わった。

5.企業や団体との連携強化

東京商工会議所や地域の中間支援組織の会員団体になってネットワークを広げてきたので、来年度以降にネットワークを活用した事業の実施に活かしていく。

(事業のスキーム図)



2.組織運営について

1.総会開催

- 2022年5月14日（金）、2022年度の通常総会を開催した。
- 議案1 2021年度の事業報告/収支決算
- 議案2 2022年度の予算と事業計画/予算
- 議案3 2022年度の役員選任と辞任

2.理事会開催

- 今年度は下記の3回理事会を開催した。
- 第1回理事会 2022年5月14日（金）
- 第2回理事会 2022年8月24日（水）
- 第3回理事会 2021年11月30日（水）

3.事務局体制

- 昨年度：理事兼事務局、学生インターン事務局体制
- 今年度：代表理事と学生インターンの事務局体制

4. マンスリーサポーター

- 2023年度3月末時点サポーター数66名 (-13名)

①送付物

- グッドガバナンス認証認定チラシ
- サポートお礼

②サポーター一覧（敬称略：順不同）



三浦 愛果 藤岡 しほり 笹原 爽志 増田 恵美 杉山 直紀 百合草 敦郎
 片石 理菜 伊藤 晴太 近藤 友葵 阿部 若菜 山本 安紀子 頼田 一樹
 片山 隼 小島 彩 佐賀 ゆり香 奥川 一輝 岸谷 薫 佐々木 茜 池上 香菜子
 足立 壮太郎 林 咲恵子 関口 大地 本多 紗都 清本 由紀乃 高橋 玲衣奈
 岡村 玲 加藤 健太 宇津木 克也 是木 勇祐 鈴木 沙有理 金子 冴月
 佐々木 秀崇 大條 誠也 高本 寛将 筒井 諒 中津川 南美 三浦 早織
 柳瀬 瑞代 舩谷 一成 松尾 尚樹 西澤 幸男 奥津 さとみ 松尾 和史
 武藤 和香奈 三浦 弘之 樋口 達郎 野村 茂雅 神村 美里 鈴木 里香
 佐藤 黎菜 篠原 岳志 矢吹 峰大 齋藤 祐希 伊藤 綾 西山 慶 上之原 良美
 石津 雄大 勝畑 大樹 浦野 愛莉 逆井 聖也 三代沢 徹 土橋 優平 猿樂 知史
 番匠谷 拓実 小泉 泰英

5. その他

- 岩手県宮古市

①感謝状の贈呈


②本州最東端のまち「宮古」PR隊



- 組織評価

公益財団法人日本非営利評価センター「グッドガバナンス認証」

コトバ 一般社団法人 ことば	
法人名	一般社団法人 ことば
活動分野	社会教育
認証番号	2022G(0)0059
認証有効期間	2022/9/13~2025/9/12
団体HP	https://kotoba-life.jimdofree.com/
所在地	東京都
代表者名	谷田川 雅基



グッドガバナンス認証
2022/9/13現在

(引用：公益財団法人日本非営利評価センター HP)

- 補助金/助成金等

- ①独立行政法人国立青少年教育振興機構：子ども夢基金 助成事業→辞退
- ②岩手県：令和4年度NPO等による復興支援事業 補助事業→不採択

3.事業詳細について

1.ロールモデル提供事業

1.生き方マガジン

- 目的：さまざまな生き方、働き方、考え方の大人を紹介し「みんな違ってみんないい」「いろいろな生き方があっていい」を大学生に伝えていくメディアとする。
- 投稿：2本（目標28本）候補者のリストアップと取材が追いつかずに更新頻度が激減した。
- 報告：2022年度の投稿数は2本となった。

投稿は一旦休止とし、再度目的の整理と体制を整える。



2.生き方ライブ

- 目的：進路に悩む大学生を対象に多様な生き方をしている人との出会いを提供する。
- 目標：Instagramフォロワー128人（前年度+8名）
- 体制：代表、担当理事、編集長、事務局
- 報告：2022年度の事業実施には至らなかった。

2.キャリア支援事業

(1)生き方ツアー

- 目的：進路に悩む大学生を対象に多様な生き方をしている人とリアルな出会いやその人の生活や仕事を体験する機会を提供することで、大学生のやりたいを見つけ言語化する。
- 実施：①僕らの夏祭りin赤前→コロナ禍で中止となった。
②僕らの夏休みProject→コロナ禍で開催を断念した。
③北海道十勝浦幌町の事前下見を実施した。「農業×大学生」をテーマにした体験プログラム
- 報告：2022年度の事業実施には至らなかった。

(2)生き方ゼミ

- 目的：さまざまな生き方をしている人との出会いを通じて、単発ではなくて継続的に関わることで自分の好きを具体化する。
- 報告：2022年度の事業実施には至らなかった。

(3)生き方相談

- 目的：団体の活動に共感している社会人が学生のキャリア相談に応じる
- 報告：2022年度の事業実施には至らなかった。

(4)生き方マッチング

- 目的：生き方マガジン含めて上記全てのプロジェクトに参加した学生を対象に企業とのマッチングを実施する。
- 報告：2022年度の事業実施には至らなかった。